

1 単元名 さつまいもの栽培

2 単元について

本単元は、畑の開墾から苗の植え付け、除草や水やりなどの作業や成長の観察、収穫、調理実習に至るまで長期に渡って学習するものである。作物の栽培は、今年度新たに始めたものであり、何を栽培するかを生徒たちと話し合ったところ、比較的簡単に栽培できて小学校時代にも経験のあるさつまいもの栽培をすることにした。小学校でのさつまいも栽培は、生徒たちにとって成功体験として印象深く残っていたため、全員一致で迷わずに決定した。生徒たちは、収穫したら何を作るか、また、給食の献立に利用してもらいたい等、口々に希望を語っていた。本学級で行う初めての栽培学習が、みんなでやり遂げた喜び、収穫の喜び、作ったものを食べる喜び、他の人に与える喜びとなり生徒たちの自信につながるようにしたい。

本学級の生徒は、計5名であり、Aは、対人関係に課題がある。Bは、知的な遅れがみられるが、対人関係はあまり問題なく生活力がある。また、Cは、知的に遅れがみられ、対人関係や生活面での課題がある。Dは、軽度の知的な遅れがあり、苦手なことから逃避したり対人関係に課題がある。Eは、特に対人関係に課題をもち、本学級の中でも周囲の友達と関わりを持ちながら学習したり、生活したりすることが難しい。このような生徒たちであるが、E以外の生徒は協力学級との交流をしている。本校の生徒は、一般的に男女の仲もよく、思いやりがあり、学級や学年のまとまりも非常によいため協力学級でも自然に受け入れられており、学級活動や給食、清掃活動はもとより学校行事においても一緒に活動している。生徒たちも、係などで自分の役割を果たし、自分なりの力を発揮しながら楽しく参加している場面が多く見られる。また、授業においても技能教科等を協力学級で学習するため、本学級の一人であることは、本学級での授業時間にしか実感しないようである。しかし、本学級での学習になると、自然な笑顔や通常の学級では見られない積極的な一面を見せることもあり、本学級での授業は貴重な時間だと認識している。小集団の中では、自分の言動がより一層存在感を帯びたものとなり、また、活動の意味や見通しがより明確に理解できるからであろう。

そこで、本単元では、小集団で学習するプラス面が発揮できて、かつ課題に魅力を感じて取り組めるような場を設定して学習に取り組ませたいと考える。苗の植え方や水やりの頻度、収穫の時期や収穫の仕方などについては、経験から学んだ知識があるため、積極的な意見や活動が期待される。また、苗の種類や収穫後の用途などについての話し合いでは、生徒一人一人の意見が結果を左右する重要性を秘めている。さらには畑の開墾や除草作業など、労力を必要とする場面では、生徒一人一人が自己の必要感を実感しながら活動が展開できるであろう。このように、魅力的な課題に経験から学んだ知識をもって取り組めば「できた・わかった」喜びへとつながるとともに、生徒一人一人の学習への姿勢がその場での決定事項や数ヶ月後の収穫に反映されるものだという認識をもって学習に取り組めば自己有用感が高まり、自信をもって学習することの少ない生徒たちにとって一つの大きな自信につながるものと考えている。

3 目 標

- さつまいもの収穫や調理実習に思いをはせ、栽培に意欲的に取り組もうとする。(関心・意欲)
- 話し合いのときには自分の意見を発表することができる。(表現)
- さつまいもの苗の植え方や育ち方、収穫の方法などについて理解することができる。(理解)
- さつまいもの苗を植えたり、収穫したりすることができる。(技能)
- 調理実習のレシピをインターネットや料理の本から選ぶことができる。(技能、思考・判断)

4 単元の指導計画と評価計画 (21時間計画 本時 17/21)

指導計画			評価計画	
次	時	学習活動・内容	評価の観点	評価の方法
1	1	何を栽培するか、また、収穫した後の活用の仕方について話し合う。	自分の経験をもとに栽培についてイメージし、また、収穫したものを調理実習や給食の献立利用、販売、プレゼントなど、いろいろな活用方法を考えたり発表したりすることができる。	観察 単元帳
2	1～10	畑の開墾をする。 ・除草作業 (3) ・土を掘り起こす (2) ・石拾い (2) ・肥料を入れる (1) ・整地 (1) ・畝を作る (1)	各作業の目的を理解して一生懸命作業をすることができる。	観察
3	1	苗の植え付け	自分の経験をもとに植え方のポイントを説明することができる。また、実際に適切に植え付けをすることができる。	観察
4	1～4	観察・除草	前回と比べてどう変化したのか、気づくことができる。伸びてきた蔓に注意しながら雑草を取り除くことができる。	観察帳 観察
5	1 (本時)	調理計画	決められた条件のもとで、自分が作りたいお菓子を決めて計画を立てることができる。	単元帳 観察
6	1	収穫・提供・保管	収穫の喜びを感じながら作業することができる。給食で活用してもらうものと調理実習で使うものを分けて処理することができる。	観察
7	1～2	調理実習	調理計画に従い、各自作業することができる。	観察 単元帳
8	1	反省	これまでの話し合いや作業、さつまいものできばえなどについて振り返り、自分の考えを発表することができる。	観察 単元帳

5 本時の学習

(1) 目標

- 自分の作ってみたいお菓子を定めることができる。(関心・意欲)
- インターネットや料理の本からレシピを選ぶことができる。(技能, 思考・判断)

(2) 準備・資料

- ・生活単元帳 (調理計画表)
- ・さつまいもを使ったお菓子の写真
- ・生徒用ホワイトボード

(3) 展開

学習活動 (予想される生徒の姿)・内容	教師の働きかけと評価
<p>1 本時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さつまいもの活用について、最初に話し合いをしたことを確認する。
<p>さつまいもを使ったお菓子作りの計画を立てよう</p>	
<p>2 各自、作りたいお菓子を決める。</p> <p>(1) さつまいものお菓子にはどんなものがあるか、話し合う。</p> <p>(2) 参考資料を見て、イメージを広げる。</p> <p>3 レシピを選ぶ。</p> <p>(1) 候補のお菓子の作り方を、インターネットか料理本から選ぶ。</p> <p>(2) レシピをプリントアウトしたり、コピーしたりする。</p> <p>4 調理実習の計画を完成させる。</p> <p>(1) 作るものに応じて準備するものを確認する。</p> <p>(2) 各自の計画を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表はうまくできないがお菓子作りの得意なAが気持ちよく発表できるよう、発言をうながしたい。また、Aの意欲がCやDに伝わるように、Aのお菓子作りに関するエピソードを披露したり、必要があればAの発表を補足したりして、Aの発表を生かしたい。 ・話し好きだが、料理経験の少ないDの発表は、必要に応じて軌道修正しながら支援する。 ・Cの発表が出ないときには、Aの発表についての意見を聞く。 ・実際に自分で作れそうかどうかを判断しながらいくつか候補を決めるように助言する。 ・レシピは、自分の好きな方法で選ぶよう話し、指導者、支援員それぞれがパソコン操作や料理本で探すところを見守る。 ・選んだ料理については、生徒のレベルに合ったレシピかどうかを判断し、助言する。 ・パソコンやコピー等の操作についての支援が必要なときには、生徒の申し出を待って支援する。 ・自分で持ってくるものと学校で準備するものを判断して単元帳に書くよう、作業前に確認をする。 ・計画表に沿って、作るものや準備するものが他の人によく聞こえるように、声の大きさや話し方に注意して発表するよう助言する。
<p>評 価</p> <p>自分の作りたいお菓子を決めて、インターネットや料理の本からレシピを選ぶことができる。 (関心・意欲, 技能, 思考・判断)</p>	
<p>5 本時の学習のまとめをする。</p> <p>(1) 各自の取組を振り返る。</p> <p>(2) 収穫の予定と調理実習の予定を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習に向けて、今後の予定や内容を確認し、計画に基づいたお菓子作りが成功するよう、教師も楽しみにしていることを伝える。